

な試みが行われる。これらの会議や催しをより有効なものとする事によって、日本でも世界全体でも天文学への関心を高める努力を続ける必要がある。今回の会が成功するよう多くの方々のご協力をお願いしたい。なお、関心のある方は国立天文台天文情報普及室あてに資料を御請求下さい。

磯部瑠三 (国立天文台)

コワール第2周期彗星 (1991 f 1) の検出

埼玉県深谷市の石川正夫氏は、1991年12月12日と13日(世界時)に撮影したパトロール写真の原板上に光度14等級の移動する彗星状のイメー

ジを発見し、さらに14日にこれを確認した上で国立天文台に連絡してこられた。

国立天文台ではその像を詳細に調べた結果、彗星状天体として国際天文連合天文電報中央局へ連絡した。国際天文電報中央局のB. G. マースデンと、群馬県的小林隆男氏はこの観測から1979年に発見され第1回目の回帰が未検出で、第2回目、1991年12月28日に近日点を通過する予定のコワール第2周期彗星の回帰であることを確認した。それによると、近日点通過は54日早くなり、周期は6.430年から4.385年になる。

香西洋樹 (国立天文台)

月報だより

第8回小惑星会議のお知らせ

今回は新大阪駅の近くで次のように開かれます。出席を希望される人は、お申し込みください。詳しいことをお知らせします。

日時と会場：第1日目：1992年6月6日(土)

13時から21時まで

大阪ガーデンパレス

(新大阪駅西800メートル)

第2日目：6月7日(日)

10時から14時まで

大阪市立科学館(北区中之島4丁目)

1階研修室

申し込み先：〒651-13 神戸市北区藤原台北町

4丁目18-5 長谷川一郎

締 切：1992年5月15日(金)

関西天文同好会 20周年記念助成研究決定

関西天文同好会では、創立20周年記念事業として優秀なアマチュアの研究に総額20万円の助成金を差し上げるための論文を公募(天文月報1971

年7月号)しておりましたが、去る11月24日に無事記念式典を終了し助成研究が決まりましたので報告させていただきます。当日は、関東から九州にかけて約80名の参加者がありました。応募研究13題の内11題の応募者の発表もありました。

選考の結果、関天20周年記念研究助成金は下記の4研究に差し上げることとなりました。

◎しし座ガンマ流星群及びジャコビニ流星群の流星物質の軌道計算による次回出現予報

長谷川隆氏 60,000円

◎彗星の新しい撮影法

柏木周二氏 60,000円

◎同時観測によるTV流星の軌道

上田昌良・藤原康徳氏 60,000円

(選考委員会で協同研究と判断し複数名の表彰といたしました)

◎太陽黒点ダイレクトアンシャープマスクの試作実験

長 兼弘氏 20,000円

助成研究の選考にあたり多数の先生方のお力添えを頂きました。紙面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

関西天文同好会 佐竹真彰